

フリースクール等に通う不登校児童生徒支援調査研究事業に係る令和7年度アンケート集計結果（途中経過）について

県内公立小・中学校、義務教育学校、特別支援学校小学部・中等部（以下「県内公立小・中学校等」という。）に在籍する不登校児童生徒のうち、フリースクール等民間団体・民間施設（以下「フリースクール等」という。）に通う不登校児童生徒及びその保護者（子に対して親権を行う者（親権を行う者のないときは、未成年後見人）をいう。以下同じ。）の支援ニーズや進路の希望、フリースクール等での活動内容や活動状況を把握し、和歌山県教育委員会の今後の施策立案に生かす。

申請者	県内公立小・中学校等にこどもが在籍している保護者
申請の要件	和歌山県教育委員会の調査研究に協力する人で、かつ次の要件を全て満たす人
(1)児童生徒	ア 県内公立小・中学校等に在籍し、不登校等の状態にある人 イ フリースクール等に通っている人
(2)保護者	ア 児童生徒の在籍校と日常的に連絡が取れる人

【令和7年度】

○調査協力金 1人月額 1万円で調査

○7月から1月までの期間で実施

○小学生54名、中学生13名から申請 合計67名からの回答があった

○通うフリースクール等は12か所（いわゆるフリースクール6か所、放課後等デイサービス6か所）

フリースクール等に通う不登校児童生徒調査研究事業

調査研究の主な途中経過（令和7年7月から令和8年1月までの調査結果）

(1) 回答者数 保護者延べ67人（1人の保護者が、複数の児童生徒について回答している場合がある）

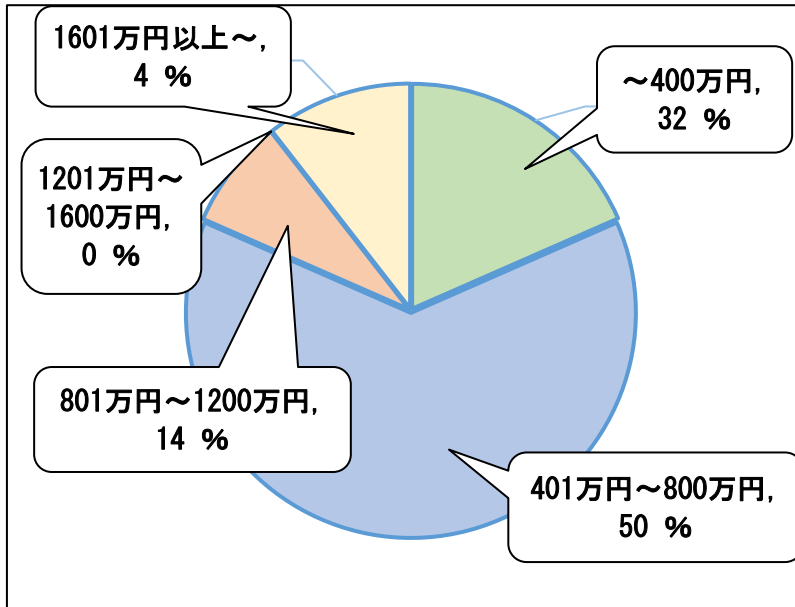
(2) フリースクール等に通う保護者の状況

授業料等平均支払額

1ヶ月あたり32,823円

（無料の施設は除く。）

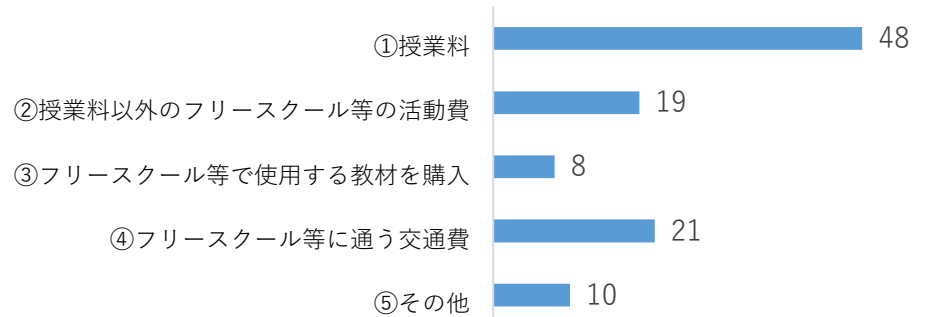
世帯年収（総収入）



平均 633.7万円

調査協力金の使い道

（複数回答可）



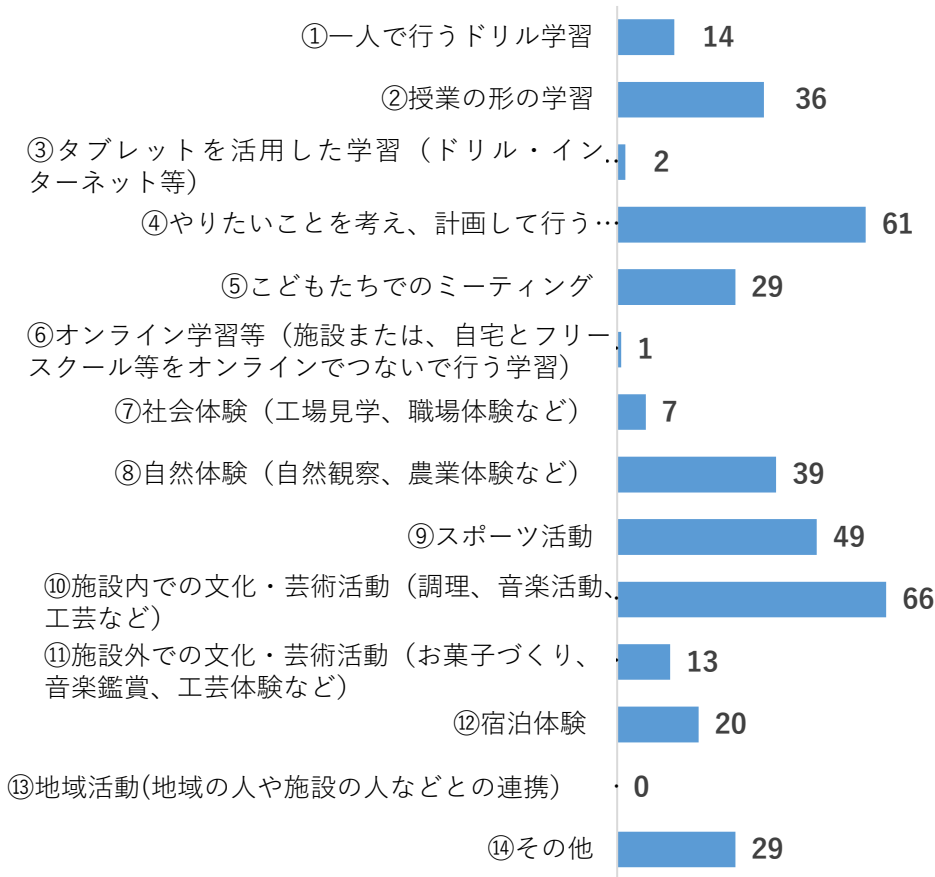
家計の負担感



フリースクール等に通う不登校児童生徒調査研究事業

調査研究の主な途中経過（令和7年7月から令和8年1月までの調査結果）

児童生徒がフリースクール等で楽しさや興味を感じる活動



※こどもは1位から3位を選択
1位・・・3点、2位・・・2点、3位・・・1点で回答を集計

保護者の意見

（回答抜粋）

- フリースクール等について、安定して活動継続できるよう、フリースクールに県や市から支援金を出してほしい。保護者の負担を減らすために補助金を出してほしい。
- 教育支援センターについて、もっと誰でも使いやすい場所にしてほしい。活動内容や人員など見直してほしい。支援センターはまだ利用したことがありませんが、フリースクールでも学習面での支援が毎日少しずつでもあれば、ありがたいです。
- 一般の公立小学校もフリースクールも、子供が子供らしく過ごし学べる場であって欲しいと願っています。フリースクールについてこのような発言の場を頂けた事、また助成金をいただける事、大変有り難く思っております。
支援ではございませんが、フリースクールは公立に通うのが難しい子供たちが公立の代わりに通う学校ではなく、どの子にとっても学びの場としての選択肢の1つとして認知されて広まれば嬉しく思っております。
- 学校に期待するのは、「詰め込み教育」や「右へならえ」のスタイルではなく、子どもたち一人ひとりの違いを尊重し、導くガイドのような存在であってほしいと願います。
子どもたちを、同じ「生徒」として一括りにされる存在ではなくそれぞれの個性、感性、ペースに合わせたクラスづくりが必要じゃないかな、と思います。
先生ひとりで30～40人を見るのではなく複数の大人が関わり合いながら、子どもたちと共に育ち合う場であってほしい。そのためには、先生ひとりひとりの意識の変化も大切だと思います。